

エーテル麻酔創始者の一人である W. T. G. Morton 救済のための 寄付に関わる小冊子 “PROCEEDINGS IN BEHALF OF THE MORTON TESTIMONIAL.” について (その3)*¹

日本大学松戸歯学部 加 来 洋 子 石 橋 肇 渋谷 鉦^{*2}

キーワード：全身麻酔，エーテル，W. T. G. モートン，顕彰

Key words：General Anesthesia, Ether, W. T. G. Morton, Testimonial

緒 言

日本大学松戸歯学部歯学史資料室の架蔵本である “Proceedings in behalf of the Morton Testimonial.” (図1) の和訳を試み，その表紙から22ページまでを訳出し紹介した^{1,2)}が，今回は23から32ページまでの和訳を紹介する。

原 著

以下は本書の概要で，英文は本資料にあるタイトルを示す。タイトルの後の () 内はページ数である。なお，本資料のタイトルに番号は振られていないが，便宜上，ここでは番号を付けた。また，今回紹介した部分をゴシックにしている。

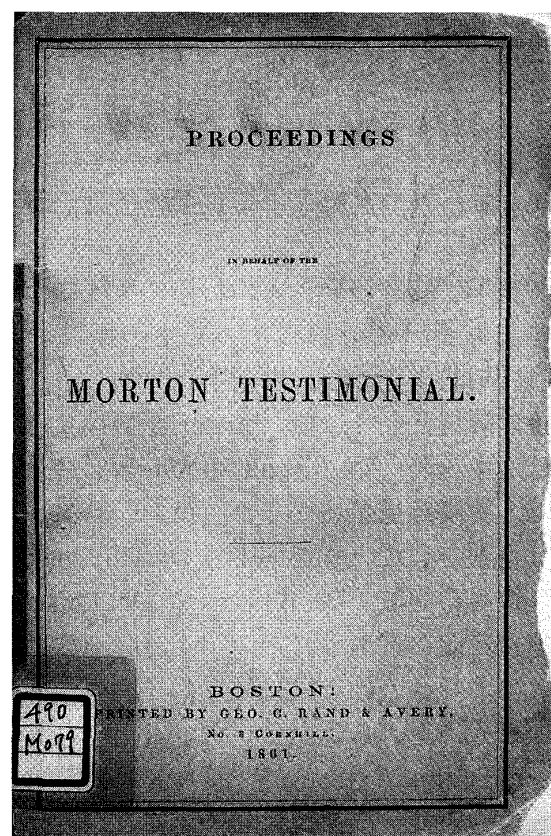


図1 今回和訳を試みた “Proceedings in behalf of the Morton Testimonial.” の表紙

1. Testimonial to Dr. WM. T. G. Morton (P3~6)
2. Proceedings in Behalf of the Morton Testimonial (P7~9)
3. タイトルなし (小委員会の声明と受託者について) (P10~12)
4. Testimonial of the Medical Profession of Philadelphia, New York, and Boston (P13~24)
 - 1) Proceedings of the Medical Profession of Philadelphia, in behalf of W. T. G. Morton,

- M. D. (P13~14)
- 2) Testimonial of Members of the Medical Profession of Philadelphia (P15~22)
- 3) Proceedings at a meeting of the medical Profession of New York (P23~24)
5. Appendix (P25~54)

*¹ On “PROCEEDINGS IN BEHALF OF THE MORTON TESTIMONIAL.” (Part 3)

*² Nihon University School of Dentistry at Matsudo
Yohko Kaku, Hajime Ishibashi and Koh Shibutani

1) Appendix A : The New York Appeal
(P27~32)

2) Appendix B (P33~37)

(1) The Boston Appeal. To the Public.
(P33~34)

(2) Memorial of the Members of the
Massachusetts Medical Society (P35~
37)

3) Appendix C : Historical Statement (P38~
44)

4) Appendix D : Proceedings of Hospitals
(P45~48)

5) Appendix E : Correspondence (P49~54)

6. Subscriptions (P55~56)

和 訳

以下、本書の和訳である。

(P23~24)

ニューヨークの医師による集会の活動記録

6月24日、麻酔の発見者のために全国的な顕彰活動を立ち上げる計画に関心をもつ医師の集会が、Dr. Willard Parker 宅で開かれた。

開会の時刻となり、Dr. Parker が挨拶し、本集会の目的を説明、Dr. Joseph M. Smith を会長に推薦した。賛成意見が述べられ、投票の結果、この推薦は可決された。引き続き、Dr. Gurdon Buck が通信担当書記に、Dr. Bibbins と Dr. Thomas が記録担当書記に選出された。

これにより会議は正式に成立し、議事を募り、以下のように進められた。

1. Dr. John Watson が、最も著名で慈悲深く裕福なニューヨーク市民数名の名簿を読み上げ、出席者がその中で自分が一番説得できそうな人を訪ね、名簿の筆頭に上るよう、できる限り高額寄付を集める役を、各自引き受けるという案を提案した。100名の名簿が読み上げられ、本会議を構成するさまざまな人たちが彼らに寄付を請う責務を引き受けるとのことで、本件は可決された。

2. Dr. Buck が、目指す目標を達成するための最も効果的な方法として、医師以外の人たちと協議するための、医師による委員会の設置を提案した。Dr. Parker がこれを支持し、本件は可決され

た。同委員会の委員には、会長により下記の者が任命された。

John W. Francis, Valentine Mott,
James R. Wood, Willard Parker,
James Minor, Gurdon Buck,
John Watson, J. Marion Sims,
Jos. M. Smith (いずれも Dr.)

また、Dr. Sayre の動議により、会長がこれに加えられた。同委員会は近々に Dr. Parker 宅に集まることで合意した。

3. その後、当市および周辺地域の各公的慈善活動の医学委員会から選出された委員が様々な施設を監督する委員会を訪問するために任命されるべきことと、今夕我々が参集した目的である寄付をその委員が請願すべきとの動議が Dr. Parker により出された。本動議は Dr. Watson によって支持され、可決された。それにより、下記の者が議長によって委員に任命された。

Dr. Gurdon Buck……ニューヨーク病院
James R. Wood……ベルビュー病院
J. M. Carnochan……エミグランツ病院
Wm. H. Van Buren……聖ヴィンセント病院
Benj. Ogden……聖ルーク病院
J. Moses……ジューズ病院
J. M. Sims……婦人病院
G. L. Elliott……こども病院
Elisha Harris……隔離病院
T. F. Cock……ニューヨーク産褥院
Hutchinson……ブルックリン市立病院
Ayres……ロングアイランド・カレッジ病院
Fitch……有色人種療養病院
Dubois……ニューヨーク眼診療所
Garrish……ニューヨーク眼科病院

4. Dr. Watson により、本集会の議事録は通信担当書記が Dr. Wm. T. G. Morton に送るとの動議が出され、可決された。

その他の議事はなく、本集会は閉会となった。

Joseph M. Smith, M. D., 会長
Gurdon Buck, M. D., 渉外担当書記
T. Gaillard Thomas, M. D., 記録担当書記

附録

附録 A：ニューヨークの嘆願書（P25～32）

医師は痛みを取り除くための安全で効果的な薬品の必要性を古くから感じていた。

古くから使われてきた一般的な鎮痛剤にはこのような効果はなく、過去 60～80 年の間にこれらの薬剤にかわり使用された様々な新薬は、危険すぎたり当てにならなかったりで、一般の医療には使えないことが、これまでに証明されてきた。

今世紀以前にも、外科手術の痛みを患者に感じさせないために、酩酊するほどの量のワインや強い酒類を飲ませる方法が、時として採用されていた。知的職業の外科医の中にも、同様の目的で患者の注意をそらそうと、不意に脅したり驚かしたりするのを常とする者もいた。また、不確かで説明のつかない催眠術の効果に頼る者もいた。さらに最近では、Humphry Davy 卿が最初に提案して、吸入投与する亜酸化窒素が、患者を一時的に気絶させるために用いられるようになった。しかし、公正な試験の結果、この試みもまた失敗に終わり、亜酸化窒素に期待しても無駄で失望するだけであることが証明された。それゆえ、人体に痛みを感じなくさせる確かな薬品を必要とする気持ち—これは非常に古くからある気持ちで、除痛のために幾度となく空しい努力が繰り返されてきた—はこの時点ではまだ満たされていなかった。しかし、それはその後完全に満たされた。

硫酸エーテルの麻酔作用が発見され立証されたときに初めて、手術中のメスの痛みを患者がまったく感じない状態を、自在に実現できる薬品を医師が手にするという、大きな勝利がもたらされた。この発見はボストンの Dr. Wm. T. G. Morton により人類にもたらされたものである。

この素晴らしい発見に先立っていかなる行程があったにせよ、自らを発見者とする Dr. Morton の主張に議論の余地はなく、本件の調査にあたった人たちの間でも、この点における彼の功績はもはや疑うべくもないものとなっている。

また、彼がかつて神の導きのままに行なった、エーテルの特性と使用法に関する調査と実験も、今日、いくら評価しても足りないほど重要になっている。麻酔薬としてこの薬品を世に出した（それが同類の薬品—クロロホルムやアミレン等—の

発表に直接結びついた）功績は、人類の苦痛を和らげるために、他のいかなる発見より役立った。（ただし、おそらく種痘は例外だろう。種痘に関しては、人類は古今を問わず医学のお陰で救われている。）

新たに発見されたこれらの薬品が役立つのは、苛酷な手術のときに限らない。これらは絶頂に達した産みの苦しみを抑えるために、痙攣を静めるために、引きつけを止めるために、骨折や脱臼の整復治療中に、意志の作用を止めて筋肉抵抗を抑えるために、情動不安や過剰な覚醒状態、病的な興奮性を緩和するために、今や文明社会のいたるところで絶えず必要とされている。また、病気の研究にも治療の場合と同様に頻繁に使われており、無数とも言えるそうした細かい用途は言うに及ばず、迫り来る死への突発的な恐怖を和らげるためにさえ使われている。

麻酔薬を使うことのこうした利点に鑑みて、私たちは、最初にその安全性と有効性を立証し、麻酔薬を医療現場に定着させた Dr. Morton を人類に重大かつ不滅の恵み、つまり彼を人類の恩人に位置づけるほどの恵みをもたらしたと考えている。

それゆえ、ニューヨーク市の医師会のメンバーとして、また同市とその近郊にある各種病院や診療所の内科医および外科医として、私たちは、Dr. Morton のために自発的な寄付により国民の献金を集める運動が、ボストンの医師および市民によって始められたことを知って喜ばしく思っている。私たちは十分に審議し、話し合った後、この運動を始めた人たちの計画に則って、同運動に参加する準備を整えた。その計画は、ボストンの諸氏により次のような文言で説明されている。

私たちは国民による寄付の制度を発足し、その収益金を受託者たる Thomas B. Curtis および Charles H. Mills の両氏に託し、保管し、Dr. Morton のために受託者が定める用途に使用し、同様の信託に投資することを提案する。

我が国に比べて専横で制約の多い他の国の政府でも、科学の要求に応える能力では勝っている政府のもとでならば通常、功績に対する報酬が、我が国のように個人の慈悲心に委ねられることはない。科学や人類にとって、Dr. Morton の功績に比べて重要性のずっと低い発見や改善にも、ヨー

ロッパでは即座に国からの榮譽と報酬が与えられる。

我が国では、連邦政府が Dr. Morton の主張を慎重に調査した上で、彼が国にもたらした利益を認めたことは確かであるにもかかわらず、今のところその功に報いてはいない。

したがって私たちは、報酬を求める Dr. Morton の主張を市民諸氏の思慮に委ね、博士のために提案された基金への寄付を謹んで嘆願する。

すでにある個々の崇高な手本に鑑みて、見識ある寛大な国民であるアメリカ人の名に恥じぬよう、本件で政府がなしえなかったことが、このまま達成されずに放置されることのないように願う。

ニューヨーク病院およびブルーミングデール養護院の内科医および外科医

Thos. Cock, M. D., 顧問内科医
Alfred C. Post, M. D., 顧問外科医
Jos. M. Smith, M. D., 実習指導内科医
Gurdon Buck, M. D., 実習指導外科医
John H. Griscom, M. D., 実習指導内科医
John Watson, M. D., 実習指導外科医
Henry D. Bulkley, M. D., 実習指導内科医
Thad. M. Halsted, M. D., 実習指導外科医
Thos. F. Cock, M. D., 実習指導内科医
Thos. M. Markoe, M. D., 実習指導外科医
Valentine Mott, M. D., 顧問外科医
Wm. H. Van Buren, M. D., 実習指導外科医
Alex. H. Stevens, M. D., 顧問外科医
Richard K. Hoffman, M. D., 顧問外科医

ベルビュー病院および救貧院長会監督下のその他施設の内科医および外科医

John W. Francis, M. D., 顧問内科医
Alex. H. Stevens, M. D., 顧問外科医
Isaac Wood, M. D., 顧問内科医
Jas. R. Wood, M. D., 実習指導外科医
R. W. McCready, M. D., 実習指導内科医
Chas. D. Smith, M. D., 実習指導外科医
John T. Metcalfe, M. D., 実習指導内科医
Lewis A. Layer, M. D., 実習指導外科医
Isaac E. Taylor, M. D., 実習指導内科医
J. J. Crane, M. D., 実習指導外科医

B. Fordyce Barker, M. D., 実習指導内科医
W. Parkker, M. D., 実習指導外科医
Geo. T. Elliott, M. D., 実習指導内科医
Stephen Smith, M. D., 実習指導外科医
Valentine Mott, M. D., 顧問外科医

保育病院, Randall's Island

Henry N. Whittlesey, M. D., 研修内科医

隔離病院, Staten Island

R. N. Thompson, M. D., ニューヨーク港衛生担当官

Theo. Watson, M. D., 隔離病院助手内科医

Blackwell's Island 病院 (刑務所病院, 疱瘡病院および救貧院)

William H. Sanger, M. D., 研修内科医

ニューヨーク精神病院内科医および外科医

M. H. Ranney, 研修内科医

州移民養護院

J. M. Carnochan, M. D., 外科医長
Henry B. Fay, M. D., 内科医長
T. C. Selden, M. D., 外科医
Francis Simrock, M. D., 内科医
H. Guleke, M. D., 外科医
G. Ford, M. D., 内科医

聖ビンセント病院

Thos. E. Burtzell, M. D., 実習指導内科医
Alex. B. Mott, M. D., 実習指導外科医
James O'Rourke, M. D., 実習指導内科医
Thos. C. Finnell M. D., 実習指導外科医
Wm. H. Van Buren, M. D., 実習指導外科医

聖ルーク病院

D. E. Eiginbrodt, 研修内科医

ユダヤ人病院

V. Mott, M. D., 顧問外科医
J. Moses, M. D., 実習指導外科医
W. Parker, M. D., 顧問外科医
C. R. Gilman, M. D., 実習指導内科医

T. M. Markoe, M. D., 実習指導外科医
W. H. Maxwell, M. D., 実習指導内科医
Alex. B. Mott, M. D., 実習指導外科医

ニューヨーク眼診療所

A. Dubois, M. D., 外科医
C. R. Agnew, M. D., 外科医
Gurdon Buck, M. D., 外科医
F. J. Bumstead, M. D., 助手外科医
T. M. Halsted, M. D., 外科医
J. H. Hinton, M. D., 助手外科医

ニューヨーク眼炎病院

Mark Stephenson, M. D., 外科医
John P. Garrish, M. D., 外科医

有色人種病院

G. A. Sabine, M. D., 顧問外科医
J. S. Thebaud, M. D., 顧問外科医
W. Parker, M. D., 顧問外科医
J. D. Fitch, M. D., 研修内科医

婦人病院

J. Marion Sims, M. D., 外科医

ニューヨーク産院

T. F. Cock, M. D., 顧問内科医
G. T. Elliott, M. D., 顧問内科医
J. T. Metcalfe, M. D., 顧問内科医

保育・子供病院

G. T. Elliott, M. D., 実習指導内科医
Geo. A. Peters, M. D., 実習指導内科医
H. C. Cox, M. D., 実習指導内科医
F. U. Johnston, M. D., 実習指導内科医

Demilt 診療所

Jno. O. Bronson, M. D., 家庭内科医
I. Cummings, M. D., 助手訪問内科医
Wm. B. Bibbins, M. D., 訪問内科医
W. R. Donaghe, M. D., 実習指導外科医
D. L. Conant, M. D., 実習指導外科医
Elisha Harris, M. D., 実習指導内科医
T. G. Thomas, M. D., 実習指導内科医

Jno. A. Bartholf, M. D., 実習指導内科医
Gouv. M. Smith, M. D., 実習指導内科医

ニューヨーク医学会

J. F. Batchelder, M. D., 会長
John Watson, M. D., 副会長
Isaac Wood, M. D., 専任評議員
W. H. Van Buren, M. D., 副会長
J. R. Wood, M. D., 専任評議員
S. Conant Foster, M. D., 副会長
Jas. Anderson, M. D., 専任評議員
C. E. Isaacs, M. D., 副会長
E. Acosta, M. D., 専任評議員
C. T. Heywood, M. D., 記録担当書記
E. H. Davis, M. D., 専任評議員
S. T. Hubbard, M. D., 通信担当書記
A. K. Gardner, M. D., 専任評議員
Jas. O. Pond, M. D., 会計
Ed. Delafield, M. D., 専任評議員
Samuel Rotten, M. D., 司書
Joel Foster, M. D., 専任評議員
W. W. Blakeman, M. D., 理事
J. C. Beales, M. D., 専任評議員
Ed. L. Beadle, M. D., 理事
R. W. Barry, M. D., 専任評議員
Benj. Ogden, M. D., 理事
H. W. Brown, M. D., 専任評議員
F. U. Johnston, M. D., 書記補
J. C. Forrester, M. D., 専任評議員
B. F. Barker, M. D., 専任評議員
H. S. Downs, M. D., 専任評議員
Gurdon Buck, M. D., 専任評議員
F. S. Edwards, M. D., 専任評議員
H. D. Bulkley, M. D., 専任評議員
F. Elliott, M. D., 専任評議員
F. J. Bumstead, M. D., 専任評議員
R. Pennell, M. D., 専任評議員
Thos. Cock, M. D., 専任評議員
T. W. Richards, M. D., 専任評議員
Thos. F. Cock, M. D., 専任評議員
A. Underhill, M. D., 専任評議員
J. J. Crane, M. D., 専任評議員
Jos. Wooster, M. D., 専任評議員
Geo. T. Elliott, M. D., 専任評議員

J. W. S. Gouley, M. D., 専任評議員
T. C. Finnell, M. D., 専任評議員
E. H. Janes, M. D., 専任評議員
J. W. Francis, M. D., 専任評議員
C. Henschel, M. D., 専任評議員
J. P. Garrish, M. D., 専任評議員
A. Gercheidt, M. D., 専任評議員
C. R. Gilman, M. D., 専任評議員
A. N. Gunn, M. D., 専任評議員
J. H. Griscom, M. D., 専任評議員
Wm. H. Maxwell, M. D., 専任評議員
T. M. Halsted, M. D., 専任評議員
E. Hall, M. D., 専任評議員
E. Harris, M. D., 専任評議員
Jarrrd Linsley, M. D., 専任評議員
J. H. Hinton, M. D., 専任評議員
John McClelland, M. D., 専任評議員
E. Lee Jones, M. D., 専任評議員
Wm. Minor, M. D., 専任評議員
B. W. McCready, M. D., 専任評議員
Jos. Martin, M. D., 専任評議員
W. Parker, M. D., 専任評議員
J. W. Ranney, M. D., 専任評議員
G. A. Sabine, M. D., 専任評議員
John Priestley, M. D., 専任評議員
L. A. Sayre, M. D., 専任評議員
Alex. H. Stevens, M. D., 専任評議員
J. M. Sims, M. D., 専任評議員
W. C. Livingston, M. D., 専任評議員
C. D. Smith, M. D., 専任評議員
Stephen Smith, M. D., 専任評議員
M. Smith, M. D., 専任評議員
Geo. Lewis, M. D., 専任評議員
Mark Stephenson, M. D., 専任評議員
Jas. D. Fitch, M. D., 専任評議員
J. E. Taylor, M. D., 専任評議員
Charles A. Budd, M. D., 専任評議員
T. G. Thomas, M. D., 専任評議員
N. C. Husted, M. D., 専任評議員
W. H. Van Buren, M. D., 専任評議員
Th's W. Horsfield, M. D., 専任評議員

ニューヨーク医学校

Horace Green, M. D., 学部長

J. M. Carnochan, M. D., 外科学教授
E. H. Davis, M. D., 薬物学教授
H. G. Cox, M. D., 理論および実地医学教授
B. F. Barker, M. D., 産科学教授
E. R. Peaselee, M. D., 生理学教授
R. Ogden Doremus, M. D., 化学教授
Chas. A. Budd, M. D., 産科学講師

ニューヨーク病理学会

E. R. Peaselee, M. D., 会長
W. B. Bibbins, M. D., 会計
E. Harris, M. D., 副会長
T. C. Finnell, M. D., 管理者
E. Lee Jones, M. D., 書記

ブルックリン市病院

James Crane, M. D., 実地指導内科医
Daniel E. Kissam, 実地指導外科医
H. S. Smith, M. D., 実地指導内科医
J. C. Utchinson, 実地指導外科医
George Cochran, M. D., 実地指導内科医
Jos. M. Minor, M. D., 実地指導外科医
C. E. Isaacs, M. D., 実地指導外科医

内科・外科医学校

Thomas Cock, M. D., 学長
Ed. Delafield, M. D., 産科学名誉教授
Willard Parker, M. D., 外科学教授
Joseph M. Smith, M. D., 薬物学教授
C. R. Gilman, M. D., 産科学教授

大学医学部

Wm. H. Van Buren, M. D., 解剖学教授
Alfred C. Post, M. D., 外科学教授
J. T. Metcalfe, M. D., 実地医学教授

【文 献】

- 1) 石橋 肇, 渋谷 鉦, 谷津三雄: エーテル麻醉創始者の一人である W. T. G. Morton 救済のための寄付に関わる小冊子 "PROCEEDINGS IN BEHALF OF THE MORTON TESTIMONIAL." について (その 1), 日本歯科医史学会々誌, 28 (1), 30-33, 2009.
- 2) 加來洋子, 石橋 肇, 渋谷 鉦: エーテル麻醉創始者の一人である W. T. G. Morton 救済のための寄付に関わる小冊子 "PROCEEDINGS IN BEHALF OF THE

MORTON TESTIMONIAL.”について（その2），日本
歯科医史学会々誌，28（2），167-175，2009.

著者への連絡先：石橋 肇
〒271-8587 松戸市栄町西2-870-1
日本大学松戸歯学部
Tel：047-360-9440
Fax：047-360-9439